

## 令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(花園小学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
花園小	57.5	55.5	56.2	71.1	58.5	58.5
埼玉県	58.0	56.7	58.6	69.9	61.6	60.9

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		花園小	埼玉県	花園小	埼玉県	花園小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	76.8	83.3	84.9	83.6	78.0	86.8
	・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができる(小4) ・自分からはっきりあいさつをすることができる(小5、小6)	75.9	78.5	78.9	78.2	78.0	78.0
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	80.5	84.6	90.9	84.6	84.4	84.1
学習習慣	・学校の宿題をしている	88.0	94.9	92.5	96.2	97.2	96.1
	・学校の授業の予習や復習をしている	75.0	69.3	86.5	69.9	79.8	70.0
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している(塾等を含む)	53.8	51.1	63.2	58.3	59.6	64.9
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	83.3	70.0	69.2	63.8	67.0	57.8
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	79.8	88.3	91.7	88.7	96.3	90.8
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	86.1	77.5	83.4	70.9	69.7	63.7
その他	・自分には、よいところがある	79.6	80.2	86.4	77.9	72.5	69.8
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	86.1	80.3	84.2	79.9	80.7	75.8
	・将来の夢や目標をもっている	84.3	89.0	90.2	88.3	80.8	83.4

## 花園小の「よかった点（○）」と「課題（●）」

### 【国語】

- 4年生は主述の選択や指示語の抜き出し、同訓異字の使い方、常体・敬体の統一など。
- 5年生は文や熟語の構成、修飾・被修飾の関係、漢字辞典の使い方の理解など。
- 6年生は文脈に即した漢字の使い方や接続語の働き、辞書の使い方、情景描写の読み取りなど。
- どの学年も平均正答率は県を下回るが、話すこと・聞くこと、書くことなどの領域では上回っている。
- 4年生は国語辞典の語順や登場人物の発言の根拠の読み取り、会話の内容の読み取りなど。
- 5年生は漢字の読み方が異なる熟語の選択や接続語の働き、登場人物について心情や考えや行動の理由の読み取り、目的に応じて理由を挙げながら自分の考えを書くことなど。
- 6年生は謙譲語の使用や同音異義語の理解、主述の関係の整理、登場人物の考えの読み取りなど。

### 【算数】

- 4年生は基本的な減法や球の中心・半径・直径の理解、重さの単位の換算・つり合いなど。
- 5年生は四則混合の計算や除法の性質、正方形の求積や面積の比較など。
- 6年生は交換・結合・分配法則が小数の場合でも成り立つことや直方体を組み合わせた立体の体積を求めること、割合や単位量あたりの大きさの求め方、帯グラフの読み方など。
- 5・6年生は平均正答率やほぼすべての領域で県の平均正答率を下回った。
- 4年生は分数の理解や除数・商がともに一位数の除法、時計の読み取りと時間の計算など。
- 5年生は複数の式を一つの式にまとめることや180度を超える角の計算、ひし形や割合、2つの数量の関係、式を用いた変化の関係など。
- 6年生は分数や最大公約数の意味、除数が1より小さいときに商が被除数より大きくなること、四角形の内角の和と外角や割合や平均の求め方、平行四辺形の求積、単位量当たりの大きさなど。

### 【質問紙】

- 5・6年生は、県よりおおむね高い。「授業の予習・復習」、「勉強が楽しい・好き」、「地域の歴史や自然への関心」、「難しいことへの挑戦」ではどの学年も県を上回った。
- 4年生では生活習慣など多くの項目で県を下回った。5年生では「学校の宿題をしている」、6年生の「脱いだ履物のかかとをそろえる」、「平日、授業以外の学習を1時間以上している(塾含む)」や「将来の夢や目標」の割合が県の平均と比べて低い。
- 昨年の結果より比較すると、5年生は昨年同様ほぼすべての項目で県を上回っている。6年生は学習への関心や将来の夢・目標が低かったが、今年はいずれも上回っている。

## 課題への取組・改善策

### 【国語】

- ◇書く活動を中心に自分の思いや考えを表現する学校課題研究を進めている。全学年で研究授業を行うとともに、各専門部で仮説と手立てをもとに書くことの定着させるための取組を行っている。
- ◇学力アップタイム(金曜日)では、2・3段落で短作文を書く活動を継続したり、俳句づくりなど親子で取り組む家庭学習を行ったりしている。よい作品を掲示し、意欲向上と家庭との連携を図っていく。
- ◇タブレット端末を活用し、毎日の家庭学習にドリルパーク等の課題に取り組むことを習慣づける。

### 【算数】

- ◇授業スタンダードに基づき全校で足並みをそろえた授業やノート指導で基礎的な学力の積み上げを図るとともに、タブレットで専用のサイトやソフト・アプリを活用した学習内容の補充を適宜行っていく。
- ◇2年生の九九検定や高学年の四則計算の達成プリントなど各学年で統一した取組を反復して行い、現学年の苦手を補う学習に取り組んでいく。
- ◇授業においては、高学年で習熟度別少人数指導や学年付きの教務と連携した短時間の補習または個別指導の時間を確保するなど、各学年の実態に合わせた形態で学べるようにする。

### 【その他】

- ◇授業スタンダード等を全職員で共通理解し、各教科における学び方を定着させるとともに、学習や解答方法に“慣れる”時間を短くし、読書や家庭学習などの“やるべきこと”への習慣化を早める。
- ◇朝食摂取率の高さなども含めて児童の長所などを家庭に知らせることで、基本的な生活習慣の継続や自己有用感の向上、将来への展望などについてコロナ禍における連携を密にしていく。